さまざまな選択 その5

2020年度の卒塾生の頑張りの紹介も残すところあとわずかとなった。今回は最後の最後まで自分の意思を貫き通した3人について紹介したい。

まずはF君。公立高校を目指していた。学年順位は50番以内であったものの、肝心の通知表評定（内申点）が伸びない。公立高校受験においては合否の半分は内申で決まるため絶対にとっておかななくてはならないものなのに、だ。高蔵寺高校の基準にも春日井南高校の基準にも残念ながら届かず、さあ、どうしようと考えていた矢先の2学期末学校個人懇談会で、学校の先生も彼の望む公立受験は厳しいと判断されたのだろう、私立の春日丘高校の推薦を勧められた。高大一貫制度もあり、近年人気も偏差値も上がっている高校である。悪い話ではない。ここを一般で受験しても内申が足りないため受かる可能性は低い。その場では返答せず、期限ギリギリまで悩み、一旦は推薦を受けようと思ったが、やはり最後の最後で「やっぱり公立受験をして自分の実力で合格したい。」と、決意を改め推薦を蹴って公立受験に挑戦することにした。その後、2学期の内申はさらに下がり、一般の春日丘高校受験はやはり失敗に終わり、不安が心を占める背水の陣となったが、もう突き進むしかなかった。得意の数学を伸ばし、苦手な社会の穴をうめていった。足りない内申の中、できる限りの実力をつけて春日井南―瀬戸西という受験にし、結果は見事春日井南に合格。つっぱりきった意地でつかんだ合格である。

二人目は中3の始めに入塾してきたT君。入塾当初に志望していた高校には彼も内申が届いていなかった。10以上足りないのである。塾に入っていなかったので仕方の無いところだが、ここから通知表を上げていくのは至難の業だった。まず授業態度や宿題取り組み態度を180度変える必要がある。真面目に一生懸命頑張っているという評価を受けなくてはならない。あとは実力アップ。今までやったこともないほど1学期間頑張り続けた結果、通知表は一気に8上がった。2学期にもさらに1上げたが、ただ、それでも志望校にはまだ足りていなかった。最終的な決断は、“今、行ける可能性のあるできるだけ高いレベルの高校を受験する”だった。結果は瑞陵―高蔵寺と受けて瑞陵に見事合格。果てなき向上心が自身を瑞陵高校に導いた。

三人目はMちゃん。「私は向陽か瑞陵にしか行きたくないので、もしどちらもダメだったら私立に行く覚悟です。」第2志望に安全圏を勧める私にきっぱり言い切ったMちゃん。結果は向陽に見事合格。覚悟を決めた強さは本番でも実力をいかんなく発揮することを示した。

進む道も様々な3人だが、自分の未来を強い意志で決定していったことは共通している。